

# 多収米契約栽培『しきゆたか』栽培暦

多収米部会



## 多収米栽培ポイント

### 育苗ハウスの管理

- 適切な育苗管理でズングリ苗を作りましょう。

ハウスの温度管理

育苗期	日数	日中	夜
緑化期	1~2日間	20~25℃	10~15℃
		10℃以下や32℃以上にしない	
硬化期	前半 3~7日	25℃以下	10℃以上
	後半 8~17日	低温時以外は外気にならず	

\*被覆資材は緑化期の直射日光を避けるためや低温時に使用下さい。

### 専用肥料

- 多肥栽培(窒素成分9~10kg)
- 施肥量によって田植え機の開度を調整する。また、地力や前作の残肥を考慮して加減をする。

しきゆたか専用肥料

資材名:しきゆたか一発588L

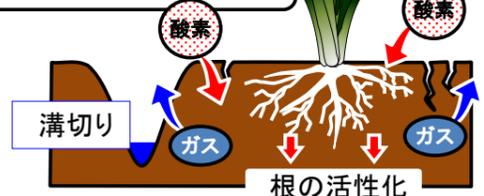
作型	成分			比重	施肥量の目安	
	N	P	K		前作水稻	前作大豆
移植 直播	25	8	8	0.85	40kg (N:10)	30kg (N:7)

### 溝切り・中干し

- 活着後浅水管理でワキが見られたら田干しをする。
- 間断通水で根腐れ下葉の枯れあがりを防ぐ
- 中干しは目標茎数の8~9割で実施する。

★目標茎数

移植(株) 60株:18~20本  
50株:22~24本  
直播(m<sup>2</sup>) 320~360本



### 適期刈取・乾燥調整

- 出穂日を記録し、刈取り開始日の目安を確認
- 刈取り直後に急激な乾燥をしない。
- 張込みから乾燥までは通風循環
- 乾燥は水分18%でテンパーリング(6時間以上休止して再び乾燥)



生育

- 多収米タイプと目標収量(収量構成要素)

多収米タイプ	目標収量(kg)	穂数(本/m <sup>2</sup> )	一穂粒数(粒)	登熟歩合(%)	千粒重(g)
穂重型	660	275	120	80	25

- 強粒(大粒&多収)づくりの前半戦

### ①健苗の育成

- 田植え後の活着が良好
- 初期の分けつを確保



### ②田植え

- 丁寧な田植え・直播種(欠株防止)
- 栽植密度:50~60株/坪



茎数の推移

草丈の推移

### ③適期中干しの実施

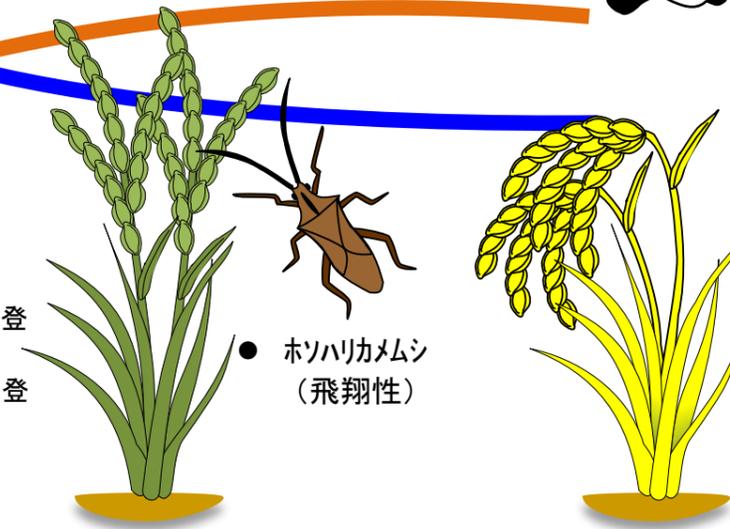
ガス

空気

- 根の活力を維持と登熟を向上
- 生育過剰の抑制、登熟歩合の確保

- 紋枯れの発生に注意

ホソハラカメシ(飛翔性)



生育ステージ	5月			6月			7月			8月			9月			10月													
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬												
	育苗期			直播・田植え期			活着期			分けつ期			幼穂形成期			穂ばらみ期			出穂期			登熟期			成熟期			刈取り期	

作業	田植え																	田干し		溝切り		中干し		穂肥			病虫害防除			収穫		乾燥調整
	水管理	活着までは深水、その後は浅水管理																	間断通水		間断通水		間断通水		水管理で肥料効果を高める			間断通水			刈取り5日前まで水管理	
施肥	専用肥料 しきゆたか一発588L																	土壌改良材						アグリフラッシュ(生育状況を見て)								
防除	箱施剤(JA苗は施用済み) ホクシー箱粒剤																							イモチ病・紋枯病・カメシ防除 チームワーク粉剤DL			カメシ防除 ダントツH粉剤DL					
除草剤	一発剤 メガゼータ粒剤 サラフラットKAI粒剤																			(取りこぼし雑草) 中期剤 アクシスMX粒剤												

作業	播種																	出芽		田干し		溝切り		中干し	
	水管理	自然落水 圃場状態に応じて入水																	1葉期:浅水、葉齢に合わせて徐々に灌水		間断通水		間断通水		間断通水
施肥	専用肥料 しきゆたか専用588L																								
除草剤	一発剤 オサキニ粒剤																			(取りこぼし雑草) 初期剤 ヒエクリーン粒剤					
	中期剤 アクシスMX粒剤																								

#### ①初期剤

品目	備考
ヒエクリーン粒剤	播種直後から
ブレキープ粒剤	1葉期まで

#### ②初中期一発剤

品目	備考
オサキニ粒剤	播種直後から1葉期まで
ゴエモン粒剤	1葉期から2葉期まで

- 強粒(大粒&多収)づくりの後半戦



### 病虫害防除

- カメシ類防除のために、畦畔や農道の雑草が住み家となるので草刈りを随時実施
- 防除の基本、病気は発生前に害虫は発生初期の早朝か夕方



### 間断通水

- 通水は3~5日間隔
- 田面に水(水位2~3cm)が行き渡ったら水を止める。(自然落水)
- 溝切りの底や田面の足跡の水が無くなるまでに灌水する。